



プロジェクト発足を発表する（左から）尾野総括副学長、小林所長、斎藤市長、斎藤機構長

水素ガス活用へPT発足

能代市、JAXAなど連携

能代市と宇宙航空研究開発機関（JAXA）、秋田大、早稲田大の4者は19日、同市浅内の能代ロケット実験場で、出る水素ガスをベンチャーエネルギーが注目を集める脱炭素社会の実現に向け水素エネルギーが注目を集める中、4者が連携して実験やビジネスの拠点をつくり、関係人口を増やすほか人材育成に足を発表した。

熊代市と宇宙航空研究開発機関（JAXA）、秋田大、早稲田大の4者は19日、同市浅内の能代ロケット実験場で、出る水素ガスをベンチャーエネルギーが注目を集める脱炭素社会の実現に向け水素エネルギーが注目を集める中、4者が連携して実験やビジネスの拠点をつくり、関係人口を増やすほか人材育成に足を発表した。

19日は市役所に4者の代表

つなげる狙い。市が主体となって実験場内にガスの再利用設備を作り、ベンチャーエネルギーなどに活用してもらう。

2大学は新エネルギー関連の拠点となるラボの設置について、事業などに提供し、研究や事業の拠点となるラボの設置につなげる「水素ラボ構想」プロジェクトチーム（PT）の発足を発表した。

市は2024年度に構想の基本計画を策定するほか、実現に向けた調査も行い、25年度に設備の建設を予算化する目標。

が集まり、PT発足や今後の見通しを発表した。斎藤滋宣市長は「水素分野のオシリーワンの取り組みに期待してほしい」、実験場の小林弘明所長は「余った水素をより身近に使えるようにしたい」と述べた。

秋田大の尾野恭一・総括副学長は「市やJAXAの協力を得て、水素分野のエキスパートを育てる場としている」と述べた。

斎藤市長は「都内ではできない実験の場として、能代の設備を活用したい」と期待した。（佐藤辰）

早稲田大の斎藤潔・持続的環境エネルギー社会共創研究機構長は「都内ではできない実験の場として、能代の設備を活用したい」と期待した。

（佐藤辰）

水素燃料企業需要調査へ

能代市などP-T発足 研究所整備計画も

能代市は19日、宇宙航空

研究開発機構（JAXA）

ことを紹介した。

能代ロケット実験場で計画

会見の冒頭、斎藤市長は

している「水素ラボ構想」

「それぞれの強みを生かし

た取り組みを広げ、エネルギーのまちを目指したい」とあいさつした。

プロジェクトチーム（P-T）

を発足させた。市は水素ラ

ボの機能や規模を検討する

ため、今年度中に県内外の

企業を対象に水素燃料の需

要調査に入る。

この日の記者会見には、

斎藤滋宣市長のほか、同実

験場の小林弘明所長、秋田

大の尾野恭一総括副学長、秋田

大の斎藤潔・持続的

環境エネルギー社会共創研

究機構長が出席した。

構想は、実験場の液体水

素の貯蔵タンクから放出さ

れるボイルオフガス（BO

G）を燃料用の高圧水素と

して有効利用し、市内に拠

点を置くベンチャー企業な

どに提供することを目指

す。

既存の液体水素の実験設備を拡張する形で、加圧や貯蔵、充填の機能を備えた施設を整備するという。

また、企業や大学などが水素燃料を使った製品開発を行う共同研究所を実験場の付近に整備する計画も報告され、両大学が学生の教育プログラムやエネルギー関連の研究活動に利用する



記者会見した（左から）秋田大、JAXA、能代市、早大の代表者（19日、能代市役所）

水素は燃焼時に二酸化炭素を排出しないため、脱炭素につながる次世代エネルギーとして注目される。能代実験場ではJAXAだけでなく、多くの企業や研究機関が液体水素を活用した実証を行っている。水素ラボ構想では、液化水素の貯蔵タンクから大気圧に放出される水素ガス(ボイルオフガス=BOG)をJAXAから提供を受け、アースター(加圧器)で再加圧し高圧水素ガスにす

能代市は19日、宇宙航空研究開発機構(JAXA)の能代ロケット実験場と連携した「水素ラボ構想」の実現に向け、JAXA、秋田大、早稲田大とプロジェクトチームを発足した。構想では、実験場の水素貯蔵タンクから発生する余った水素ガスを再利用する設備の増設と、水素関連の開発・実証を行う企業が集まるオフィスラボの建設を計画する。大気に放出される「未利用水素」を有効活用する先駆的な取り組みで、年度内に事業化の可能性調査(FS調査)を実施して基本計画を策定する。来年度にも水素の新たな貯蔵設備を整備したい考え。

(博士)が市のラボ構想に参画する目的などを語った。4者の役割は、JAXA

水素ラボ構想

プロジェクトチーム発足 年度内に基本計画策定へ

能代市

JAXA

秋田大

早稲田大

る。放出されたBOGは1気圧と低圧なため、高圧にして再利用できるようになる。高圧水素ガスは能代実験場に増設するタンクに貯蔵して充填できるようにし、水素の製造・開発を手掛ける中小のベンチャー企業などに提供する。ベースターと高圧水素ガスの貯蔵・充填設備は市が整備する方針。

能代市「水素ラボ構想」プロジェクトチーム発足



能代市水素ラボ構想のプロジェクトチームが発足。左から尾野副学長、小林所長、斎藤市長、斎藤機構長(市役所で)

基本計画を策定する。また7月20日に同市で開かれるJAXA主催の水素シンポジウムで実験場の二ヶ所の調査を行い、増設する設備の詳細を検討し、

今年度はFS調査や企業の二ヶ所の調査を行い、増設

と産学連携の推進を図る。今年度はFS調査や企業の二ヶ所の調査を行い、増設

する設備の詳細を検討し、

博士)が市のラボ構想に参画する目的などを語った。

4者の役割は、JAXA

と産学連携の推進を図る。

今年度はFS調査や企業の二ヶ所の調査を行い、増設

する設備の詳細を検討し、

博士)が市のラボ構想に参

画する目的などを語った。

4者の役割は、JAXA

と産学連携の推進を図る。

今年度はFS調査や企業の二ヶ所の調査を行い、増設